

| | |
|------------------|---|
| Title | 近世支那外國貿易史(米谷榮一著, 生活社發行) |
| Sub Title | |
| Author | 杉本, 忠(Sugimoto, Tadashi) |
| Publisher | 三田史学会 |
| Publication year | 1940 |
| Jtitle | 史学 Vol.18, No.4 (1940. 4) ,p.222(784)- 222(784) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 書評 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19400400-0223 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

近世支那外國貿易史

(米谷榮一著)
(生活社發行)

支那近世史に關する知識は現段階に直接連り且之に先行せる事象として今や最も吾々の關心を要求しつゝあるが、就中外國貿易はその核心とも考へらるべきもので、支那近世史が一に對外交渉史或は西方東漸史とも云ふべき性質を有することは何人も認むる所であるが、抑歐人東漸の初より、傳統的支那は商業關係を通じて西洋を知る様になつたとも云はれ、かの世界帝國たる中國を以て自負せる支那が一舉に列強の半植民地にまで引下された端緒をなせる阿片戰爭を初め、而後太平亂に原因する英國の支那關稅行政權支配と、その後の關稅自主權回復運動等々あらゆる重要事件の背後には直接間接貿易關係が伏在するのを見るのである。本書はかゝる支那外國貿易に就て、主として十九世紀より現在に至るまでをその範圍とし、著者が昨年北京にあつて蒐集せられた資料に基き詳述せられたもので、經濟的後進國として先進列強の商品市場となり原料供給地となつた支那が、先進諸國の經濟的政治的發展に従つて此等の諸勢力に支配せられ來つた様相と、錯綜せる諸外國勢力と複雑なるその影響とが示されてゐる。本書はその形式に於て幾多の資料を掲げ、敘述も多くはそれ〴〵出典の文章を採られてゐるので、一般讀者が一貫して通讀するには稍晦澁の憾もなしとしないが、それだけに又研究者にとつては手頃な參考資料として大いに著者の勞を謝せなければならぬ。定價三圓五十錢(杉本忠)。

東洋史概觀

(上野菊爾著)
(清教社發行)

近來澎湃たる興亞意識に應じ、事變以來此種の著書が既に數種發行せられてゐるが、その中で最新の本書は又最も良心的なるもの一つである。本書は全卷約四百頁の半を清朝以後現在に至る期間の爲に割き、近世に厚く古代に薄きは、現在の要求に應ぜる此種書籍の最近の傾向を踏襲してゐるが、地域を主として支那印度の二大文化圏に限り、又幾分活字を小としてゐる爲、近世以前の時期に關しても相當な内容充實を示してゐる。「概觀」と云ふ點に特に意を用ひられた爲か、故意に具體的記述を避け却て表現を曖昧ならしめたかと思はれるやうな箇所もないではないが、その所論と考察とは概して清新である。文章が此種の書としては稍特異なスタイルを持って流暢を缺く憾もあるが、其處に却て些細な事象をも忽にしない著者の意圖が隠されてゐるかとも察せられる。要するに本書は、從來數冊に互る尠大なものか、或は簡に過ぎ古きに過ぎる東洋史概説書界にあつて、一冊本として手頃な内容を有するものとして推薦するを憚らない。(杉本忠)

世界政治地圖

(ワルター・パール著・千葉秀雄譯)
(清和書店發行)

歐洲大戰の再發を繞つて、國際關係の複雑化、世界政治の幾變轉は目まぐるしいばかりであり、今や東亞に於て劃期的なる新時代に乗り出した我が國民としても、正確なる國際政治の認識を必